

# 「異音感知」、「沿線火災」が連続して発生！

## 安全確保のためには、車掌の削減は反対だ！

7月9日、東海道新幹線の沿線（一宮市）で通信ケーブルの火災が発生しました。また、7月11日には「さくら548号」が新山口～徳山間で異音感知し緊急停止し車両点検を行いました。

通信ケーブルの火災では、のぞみ103号を付近で緊急停止させて、その乗務員が消化器で消化しました。また、さくら548号の車掌は一人乗務ですが、車掌が直接車両点検を行っており、点検中の乗客の安全確保など問題があります。いずれの事象も、乗客を乗せた営業列車での事象であり乗務員が直接、事象を担当したものです。地本は直ちに、それぞれの詳細と安全確保に関する問題について会社へ申し入れをしました。

詳細について会社は、隠蔽体質によって社員に何ら明らかにしていません。これでは社員が何を教訓にすればいいのか分かりません。後日開催される交渉の場で、抗議と会社の姿勢を追及していきます。

乗務員が消化器で消化する事象や車両点検は、会社からの指示で乗務員が適宜、実施していると考えられますが、私たちが問題にするのは、そこで働く社員の安全と、乗客の安全確保です。発生した事実から、その原因究明と教訓を明らかにすることが重要です。

## 東海道新幹線の車掌2人乗務では異常時対応に問題あり！

このような中、会社は「新幹線車内業務の見直し」を提案し、来年3月実施にむけてJR東海ユニオンと実施ありきの協議を進めています。新幹線の車掌を減らすことのみを目的にした内容であり、車掌の業務をパーサーへ委託すると説明していますが、現行の車掌の業務は煩雑であり、乗務している3名の乗務員相互の連携によって乗客の安全を確保しています。しかし、会社の提案する車掌の乗り組みでは、今回のような対応が出来るのか、安全は確保出来るのか、職場の車掌は不安を抱えています。

のぞみ号の車掌2人乗務となる会社の提案は、安全上、大きな問題と不安が明らかになっています。増え続ける新幹線の乗客の安全確保のために「新幹線車内業務の見直し」による車掌の削減は反対です！